

Report from the EDGE

ディスレクシア (Dyslexia) とは.....
 知的に問題がなく、聴覚、視覚の知覚的機能は正常なのに、
 読み書きに関して特徴のあるつまずきや学習の困難を示す症状のことをいいます。
 EDGE は.....
 ディスレクシアの正しい認識の普及と教育的な支援を目的とした特定非営利活動法人 (NPO) として、
 2001年10月に認証・設立され、活動しています。

日本語におけるディスレクシアの研究－出現率を中心に－

筑波大学大学院人間総合科学研究科感性認知脳科学専攻 宇野 彰

1. 表記

「dyslexia」という用語は、大脳損傷後に出現する「失読」の症状や診断名によく使われています。発達性 dyslexia のみを示す用語ではありません。また、大脳損傷の既往がなく、かつ知的障害のない典型例では、読み障害のみを示すばかりでなく書字にも問題が認められています。したがって、混乱を避けて「発達性 dyslexia」または「発達性読み書き障害」と呼びたいものです。

2. 出現頻度

発達性 dyslexia の出現頻度に関

して、海外では「読み」のみが対象で「書字」については報告されていません。

(1) 英語圏

Katusic (2001) らは、学校で特別な対応は必要ないとされた児童のうち約3%が読み困難 (RD: Reading Disability) 児童としています。逆に支援が必要とされた児童の約1/3は、読み困難児ではないと判断されました。教育現場では診断評価に必要な検査を十分には実施できないため、客観的な評価が難しいと思われる。また、出現頻度は基準によって異なり、知能から予

測されるよりも1.75SD (Standard Deviation: 標準偏差) 以上低い読み到達度を示した場合は5.3%、読み到達度とWoodcock-Johnsonの総合IQから予想される読み到達度との差が1.5SDよりも大きい場合をRDとした場合は6.7%、知能



特別支援教育
「連携づくり」ファミリレーション
堀 公俊 監修 三田地真実 著

支援計画を立て実践するためには、チームワークとネットワークが大切。本書は話し合いを活性化し、協働・連携するためのノウハウを紹介する。特別支援教育コーディネーター必読の書。
定価1,995円(税込)

LD・ADHDアスペルガー症候群からいじめ不登校非行まで
輝きMAX!
すべての子どもが伸びる特別支援教育
品川裕香 著

◆教育再生会議委員による特別支援教育提言

特別支援教育が、発達障害だけではなく、学力不振、いじめ、非行への対応にもつながり、すべての子どもがよりよく育つための教育であることを取材を通して実際に伝える。
定価1,365円(税込)

アスペルガー当事者が語る
特別支援教育
「スロー・ランナー」のすすめ
高森 明 (Mitsuo) 著

◆自閉症当事者から見える特別支援教育の課題

高機能広汎性発達障害の当事者である著者の視点から、特別支援教育における教師や専門家、行政が考える支援のあり方と当事者が望む支援とのズレを明示し、問題提起を行う。
定価1,890円(税込)

発達障害の子を育てる
家族への支援
柘植雅義・井上雅彦 編著

◆発達障害の子を養育する家族への支援のあり方

発達障害のある子を養育する家族を、教師や専門家がどう支援するかについて演習問題等も交えてわかり易く紹介。発達障害にかかわる教師・支援者必携の「家族支援」の入門書。
定価2,520円(税込)

<http://www.kanekoshobo.co.jp>

金子書房

〒112-0012 東京都文京区大塚3-3-7
TEL.03(3941)0111 FAX.03(3941)0163

と読み到達度との差について学年別に補正すると8.9%、IQが80以上で読み到達度が90以下の場合には11.8%という結果でした。Miles (2004)は、3%が読み困難重度群で、6%が健常群との境界領域を含む軽度群としています。

(2) 日本語

Makita (1968) の調査はアンケー

トの結果を基に報告しています。Hirose & Hatta (1985) らの報告は客観的な検査が用いられています。音が、音読力をみている調査ではありません。したがって、どちらも海外での調査結果とは比較できないと思われま。宇野らは1,200名の小学生に、音読や書字検査と様々な認知検査および言語発達検

査と推論力検査を行っています。全般的知能低下例を除き読み書きの平均値-1.5SDを基準値とした場合、ひらがな、カタカナの音読とひらがな書字では約1%、カタカナ書字に関しては約2%、漢字に関しては音読で約5%、書字では約8%という出現率でした(未発表データ)。

日本LD学会第16回大会

「ディスレクシアを主体にー特異的LDへの気づきと支援」

来る2007年11月23日から25日にかけてLD学会が横浜で開催される。

今回のメインテーマは「ディスレクシアを主体にー特異的LDへの気づきと支援」です。特別講演では「読みの脳科学がいかにディスレクシアの知識と介入を広げたか?」という演題でディスレクシアの神経心理学的メカニズム：二重障害仮説、特にRAN (Rapid Automatized Naming) の世界的研究者であるマリアン・ウォルフ博士が話します。また、ディスレクシア児の教育で

有名なアメリカの私立学校ランドマークスクールのロバート・カーン校長が指導の実践などについての講演をします。

大会企画シンポジウムでは「日本におけるディスレクシア児への支援」という題で評価、指導、研究と民間の支援の立場から討論が行われ、特別講演の演者お二人も指定討論をなさいます。

マリアン・ウォルフ博士には昨年のIDA (International Dyslexia Association) でお目にかかりました。とても元気な方でした。3種類の文字を使用する日本語でのディスレクシアのアセスメントにはRANは欠かせないと日ごろから感じていますので、ウォルフ博士の講演は楽しみにしています。

ランドマークスクールは数年前に見学に行きました。広大な敷地に点在する校舎はほとんどが卒業生の親が寄付したものとか…。一クラス4名から8名。小学校2年生から高校3年までの共学です。1970年に創立者のドレイク博士が学校を始めたときはドンキホーテ



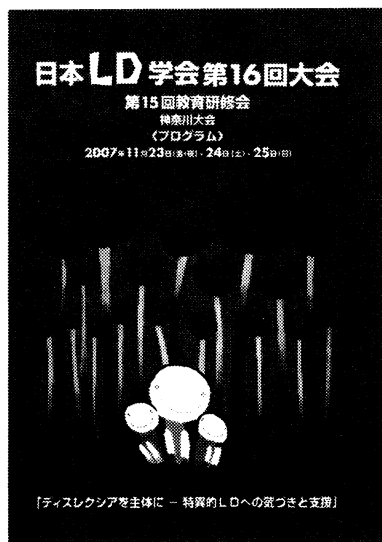
左からウォルフ博士、藤堂

のように非現実的なことだといわれたそうです。しかし、ディスレクシアの生徒読み書きの困難さを持ちながらもランドマークスクールの卒業生の90%以上が大学に進学しており、弁護士や医者として活躍している人もいます。

ディスレクシアの支援ということでNPO法人エッジからも話題提供をする予定です。詳細は <http://ld2007.schoolbus.jp> にて。

※プログラムと論文集の表紙は「愛をはこぶ人キャンペーン」の協力者でディスレクシアの画家マッケンジー・ソープ氏の絵が使用されています。

(文責 藤堂栄子)



「ディスレクシアを知る」講演会

平成19年7月6日(金)、東京都庁都議会議事堂都民ホールにおいて、東京都・東京都発達障害者支援センター・NPO法人EDGE共催による講座「ディスレクシアを知る～基礎講座と体験・当事者の話を聞く～」が開催されました。内容は第1部「PDD・AD／HD・LDについて」と題し、目白大学教授・山崎晃資氏(本センター顧問医)による発達障害全般にわたる精神医学の立場からの基礎講座、第2部はNPO法人EDGE理事・林正紀氏による「LDを体験する」、および同じく林正紀氏をモデレーターとして当事者3名の方々からその

体験談を伺う「ありのままの自分でいこうよ」というものでした。

参加者は教育関係者、福祉関係者、行政関係者、保護者等様々でしたが、第1部、第2部ともに250名を越え、ディスレクシアを含む発達障害に関する関心の深さが窺われました。参加者からのアンケートによると、第1部の「基礎講座」に関しては「発達障害について、系統だてて理解することが出来た」「講師の情熱がよく伝わってきた」など、第2部の「体験」に関しては「当事者の方の困難が、実際に体験することでホンの少しでも理解できてよかった」「当事者

の方の目線で物を見る経験が出来た」など、そして「当事者の体験談」に関しては、「大変な思いや辛い思いをされている方の生の声が聞けてよかった」「これからの支援の手がかりを得られた」などの声が多く、全体として「知識を得ること、体感する、感じることの両面から学ぶことが出来た」との感想を多くいただき、主催者として今後もさらに発達障害についての普及・啓発に努めていきたいとの思いを新たにしました次第です。

(東京都発達障害者支援センター
島野雅子)

インターネットラジオ放送収録(第13回DX会)

三周年記念、第13回DX会は2007年8月4日(土)にエッジ会員である明星大学講師榎本達彦さんのご協力で、同大学で開催されました。今回はインターネットラジオの放送収録があり、参加者12名(男6名、女6名)と増えました。ロンドン、ミシガン、金沢から参加の方々もいて、会への期待度が窺えました。ゲスト3名(女性)は、収録開始30分ぐらい前から到着され、ご自分自身の悩みと希望を語り合っていたのが印象的でした。

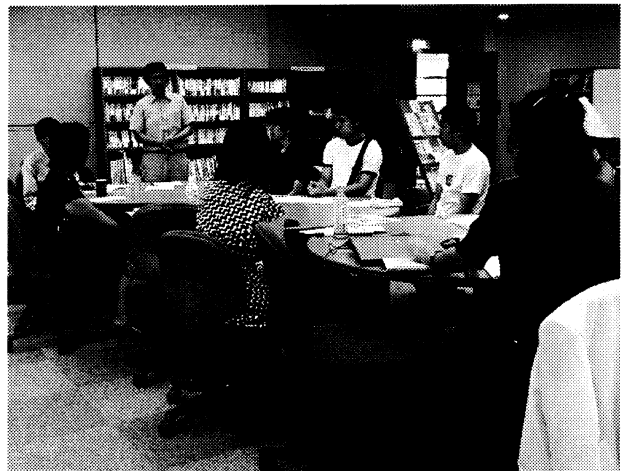
第13回DX会の記念すべき一回目の収録は予定時間通り午後3時に、開始されました。緊張の放送開始の挨拶が終わった時分には参加者は落ち着いてきました。メイ

ンの藤堂母子(藤堂栄子会長、長男高直さん)の対談が始まると、全体の雰囲気盛り上がりしてきました。やがて、「ディスレクシア」、「NPO EDGE開設のいきさつ」、「DX会開設の話」がご両人によって語られるころにはピークに達しました。大きな混乱もなく、予定通り前半は終わりました。後半はゲスト3人の質問に対して、常連メンバーが「共感したり」「同情したり」「叱咤激励」をする雑談になりました。終了後、多く

の参加者に満足の笑顔がこぼれているのが見えました。初めての収録は成功でした。

http://blog.livedoor.jp/npo_edge/archives/cat_50033715.html

(文責 柴田章弘)



ディスレクシア塾の教え方 **国語**

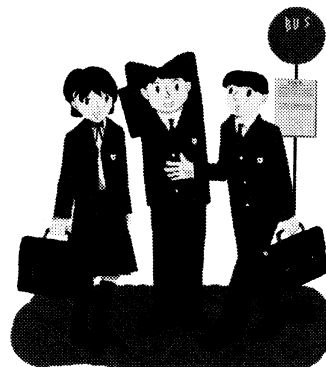
講師 芦澤唯志

(1) はじめに

私が20年来、国語の指導に携わっていて感じていることは、「国語は勉強の仕方によっては伸びる科目だ。」ということです。私が主宰する葛飾の翼学院には、現在100名近い生徒が通っています。そのうち6割程度が学習や学校生活に困難さのある生徒です。入塾時に彼らが苦手科目の一番に挙げるのが、国語です。ところが卒業時に彼らが一番の得意科目として挙げるのも国語なのです。「文章を読んで、考えて、何かを書く」捉えどころのないコンニャクのような科目と感じていた国語が、一定の視点を身につけることで、飛躍的に伸びるのです。一行も文章を書けなかった生徒が、作文だけで都立高校に合格する例は稀ではありません。「国語で文章が読めるようになったら、数学や英語の文章題も解けるようになった。」という声も多く聞こえてきます。では、国語力とはいったい何なのでしょう。

(2) 国語の力とは、国語力をつけるには

国語の力は、読解力、思考力、表現力に集約できます。一言で言うと「読んで、考えて、表現する」という力です。しかしこの力は、いくら多くの問題集を解いても身につけません。また、むやみやたらに読書しても身につかないのです。文章を読むのには文章を読む方法が、思考をするのには思考の方法があります。これをディスレクシア塾で指導しています。すべての指導のベースになるのが「対話」です。教科書などの文章を題材にして、自分の経験や興味に結びつくように、みんなで多角的に「対話」をしていきます。お化けの出てくる小説を読むときには、それぞれのお化け体験を話し合います。但し、最低限の約束として小説ならば、「いつ、どこで、誰が、何を、どうした」を探し出すことがルールです。そして、自分のお化け体験を話すときも「いつ、どこで、誰が、何を、どうした」方式で



話します。講師はファシリテーター（またはインタビュアー）です。一方的に教え込む、ことはありません。みんなでワイワイ授業を作り上げていくのです。小説の場合の、「いつ、どこで…」のような一定のスタイルのことを、私は「型」と呼んでいます。もちろんひとつの「型」がすべてではありません。勉強とは、その場、その場に応じた「型」を見つけ出す力をつけることを最終目標とするものだと、私は考えています。それまでは、ひとつの「型」を使ってたくさん練習するのです。文章を読むとき、表現するとき、人の話を聞くとき、マンガを描いたり読んだりするとき…。これにより思考力が身につけてきます。もちろん、問題の解き方の「型」も指導しています。

(3) ディスレクシア塾では

マンガのオチを考える、詩に入るオノマトペ（「つるつる」などの言葉）を考える、言葉を声に出して味わう、自分の考えを発表する、ほかの人の話を聞く、など、ディスレクシア塾ではいろいろな練習に取り組んでいます。一度、遊びにいらしてください。

※現在ディスレクシア塾の国語の時間では芦澤さんが定期的に来られないため、少しアプローチを変えています。経験のある学習支援員がマルチセンソリー（いろいろな感覚を使って、学ぶ楽しさを身に付ける）で一人一人のニーズに合わせた指導を始めています。それぞれの目標を見極めスモールステップで進めています。（2007年10月）

DX塾とは

事務局

ディスレクシアを中心としたLDの児童生徒は、読み書きの困難さに日々苦しんでいます。自分の特質にあった方法で学ぶことで本来の学習力を発揮できるようになります。また、パソコンなどの補助器具を使うことで学習の効率が格段に上がることも知られています。エッジではこれまで培ってきたさまざまなディスレクシアに対応するノウハウを活用して、読み書きの困難を持つ児童生徒一人一人の力が最大限に生きるよう、算数（数学）、国語、英語の指導を行うのがディスレクシア塾です。少人数で一クラス6人が定員です。さらに講師一人とLSAの資格を持った2～3人の

サポーターが支援します。ディスレクシア塾では児童生徒一人一人の特性を活かし、ラーニングスタイルにあった方法を身につけられるように、計画を立て、個別対応をします。このため、必要に応じて検査を行い、指導計画を作成します。達成感のあるプログラムを利用し、小学生は授業中に分からなかったことや宿題などの学校の補習を、中学生は受験も視野に入れた指導をいたします。

（使用プログラムの例：珠算、DAISY、LEXIA、Reading Pen、フォニックス、マインドマッピング、PCタッチタイピング、感覚統合等々）

DX塾のサポートで学んだこと

栗原 宏明

「ほくやりたーい!」「つぎ僕がやる!」

先生が持っている大きいソロバンを一回転させて数を当てるゲームをやっていた時のことです。子どもたちは自分から前に出て行って「やりたい!」「やりたい!」と目を輝かせていました。また一方で5の補数（例えば2と3）、10の補数（例えば3と7）をワークシートに出来るだけ早く書く課題では、子どもたちは真剣そのもの。われこそは一番にと集中して問題と向かい合っていました。

私はディスレクシア塾で算数・数学の時間に子どもたちと一緒に活動をしています。授業はいつも

にぎやかで、子どもたちは楽しくソロバンの勉強をしています。ソロバンは半具体物を使い視覚、触覚や運動感覚を手がかりにすることで、ディスレクシアの子どもたちの理解度を高めるツールだと言われています。そして何よりも、

ソロバンを通して子どもたちと対話をし、楽しみながら進められることが子どもたちにとっても私たちにとっても一番だと思います。これからもスタッフ一同、楽しく取り組めるよう工夫していきたいと思っています。



ジョブサポート養成講座を受講して

柴田 章弘

港区民・学生向け 2007 年度
ジョブサポーター養成講座を、明
治学院大学で 9 月 5 日から二日
間受講しました。初日の「共生社
会の理解」のお話から、障害者と
健常者が互いに生きられるのが理
想であることを学びました。午後
はハローワークの職員のお話を伺
い考えさせられました。ハロー
ワークでは障害（特に発達障害）
について一生懸命対応しようとし
ています。しかし、企業側、とり
わけ零細企業の無理解が大きな問
題であることを認識しました。外
から見ているのとは違います。二
日目は現場の実例発表でした。大
学の図書館で働いている障害者の



方の仕事の習得過程が面白く、発
達障害の人々にも応用できること
がありました。「得意な面を活か
す」「常に声をかける」「業務の細
分化」など、即座に役立ちそうで
す。最後に社会福祉法人の職員か
らジョブサポーターの心構えを伺
いました。ジョブサポーターは利
用者（障害者）に仕事内容を具体

的に理解させ、自信を持たせるこ
とが大切です。例えば、デジカメ
で撮影した画像を貼り付け、表示
や手順を明確にすると、働きやす
くなります。障害者にとって優し
いことはすべての人々にも優しい
ことがわかりました。今後、NPO
EDGE の活動に活かしていけると
確信しました。

LD疑似体験で、いじめちゃいました！ 「ふれ愛まつり芝地区」出店報告

宮城 郁代

9 月 8 日（土）、猛威を振るっ
た台風が通り過ぎた翌日。秋風…
と思いきや、朝から猛暑の中、「ふ
れ愛まつり芝地区」（於：港区立
芝公園）に出店しました。EDGE
の活動や個別支援室、LSA の PR
も兼ねて、パネル展示・書籍販売・
LD 疑似体験が主な内容です。

LD 疑似体験では、「平和の鶴
を折ろう！」と集まった主婦やお
子さん連れの保護者に、「出来な
い！」「なんで？」をたっぷり味
わっていただきました。まず、白
手袋と軍手を 3~4 枚重ねてはめ、
利き手と反対用の鋏を使用し折り
紙を切り取ることから始まりま
す。…ここですでに悲鳴。さらに、
それを使って鶴を折ります。時間
との闘いがあります。隣で着々と

折り進める子どもの姿に、親とし
てのプライドとも闘いながら手元
が焦ります。できあがったヨレヨ
レの鶴（？）に苦笑…。1羽の鶴
に 20 分掛けた強者もいました。
（そのころには、周囲の声は届か
なくなっていました。）

体験後、外された手袋は、汗で
びっしょり…!! 冷や汗&暑さ&
熱さの結晶!? また、なぜか体
験終了後に、何かを確かめるよう
に、もう一度素手で鶴を折ってか
ら満足げに帰る方が多かったのが
印象的でした。



事務局の今日のご様子

柴田章弘

□活用事例としての特別支援教育 支援員の活用事例としてNPO EDGEを紹介

文部科学省が平成19年度6月に発行した「特別支援教育支援員」を活用するために”の中で活用事例が3つ掲載されました。その中の一つ、NPO法人と協働で行う支援事業の取組として、NPO EDGEのLSA派遣の仕組みが紹介されています。(P9から11まで)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/002.pdf#search

□港区個別支援室ラボセンター

個別支援室のラボセンターには約800冊の蔵書があります。一般書、専門書、教材、漫画、雑誌など雑多ですが、最近ちょっとした情報センターの役割を果たしています。DX塾、LSA養成講座の受講生のみならず、スタッフにもよく貸し出されています。人気のある本は「ドラえもん」「ドラゴン桜」「のだめカンタービレ」「光とともに」「あたしんち」などの漫画類です。漫画も角度を変えれば、立派な学習材料です。もちろん、ディスレクシア関係の本も多

数そろえてあります。このラボセンターが勉強や、息抜きに役立つことを願っています。

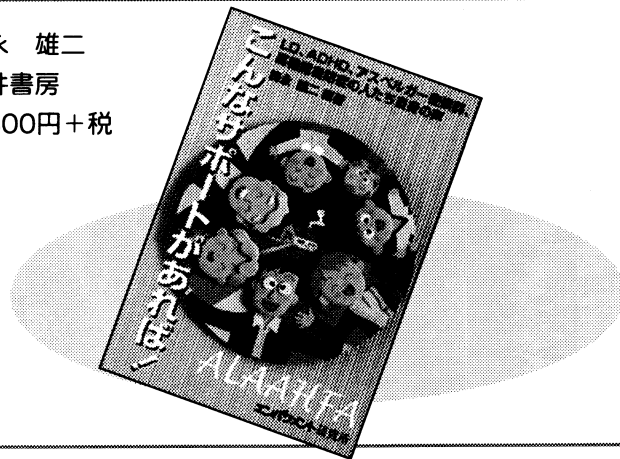


こんなサポートがあれば

LD、ADHD、アスペルガー症候群、高機能自閉症の人たち自身の声

10人の発達障害当事者が自分自身の生き立ちと人生経験を告白した、衝撃の一冊。今まで、支援する側から書かれた本は数多くありましたが、当事者の側から書かれたものは少数でした。本当の当事者の気持ちと必要な支援を考えさせられます。当事者も、支援者もお互いを理解するためにぜひ読んでいただきたい本です。

著者：梅永 雄二
出版社：筒井書房
値段：1,300円+税



最近の活動紹介

- 7月23日～27日 夏休み講座
- 7月30日～8月3日 DX塾夏期講習
- 8月9日～9月28日 学習支援員養成講座 (第5期)
- 9月3日 DX塾新学期開始
- 9月8日 ふれ愛まつり芝地区
- 9月18日 愛はこぶ人キャンペーン実行委員会
- 9月27日 田口教育研究所講演
- 10月11日 大学スクールカウンセリング研修会 講師
- 10月12日～14日 宮崎県で講演

- 10月16日 慶応大学SFCでゲストスピーカー
- 10月20日 健康科学大学講演

今後の予定

- 10月27日 明星大学講演
- 11月17日 LSAフォローアップセミナー
- 11月16日～27日 ホテルオークラにてマッケンジー・ソープ絵画展
- 11月18日 館野 智恵子さん講演
- 11月23日～25日 LD学会 (横浜)
- 12月2日 JDDネット年次会 (名古屋)

香港ディスレクシア事情

4月に神戸で行われたディスレクシア会議の席上お目にかかったコニー・ホー教授にお頼みして香港のディスレクシア事情を教育再生会議の委員の品川裕香さんと視察してきました。7月のはじめ、ちょうど香港は中国に返還されて10年を迎えていました。中国では教育においても二つの制度が存在します。英国の植民地であった時代の良いところを遺しつつ中国的な互助精神も受け継いで展開されているように感じました。香港大学 コニー・ホー教授は香港の随一のディスレクシア研究者です。香港島の丘の上に建つ古い時代からのレンガ作

りの校舎で香港のシステムや現状についてうかがいました。すでにアセスメントの第2版が出されています。なんと香港の800万人の人口に対してディスレクシアセンターが7箇所あり、昨年一年間で1000名のディスレクシアの人のアセスメントをしたそうです。

東華三院教育科：あの2003年9月に発行されたTIME誌の表紙を飾った青年はこの学校の生徒でした。養護学校も併設しているグループなのですが、ディスレクシアに対しては単に文字を読み書きすることだけではなく、文章を読み、そこから考え、劇やプレゼンテ

ションをして自分の物として言語を使用することが出来るように全校で特別な取り組みをしています。(つづく)

続きはブログ：ニュースレター15 http://blog.livedoor.jp/npo_edge/archives/cat_50007440.html をご覧ください。(文責 藤堂栄子)



左から3人目 藤堂会長、右端 品川裕香さん

愛をはこぶ人キャンペーン

「愛をはこぶ人キャンペーン」で毎年恒例となっておりましたマッケンジー・ソープ氏の今年の来日は画家の都合により難しくなりました。来年2008年秋には来日の予定で、2年分を盛り込んだ魅力的な企画を開催して行きたいと思えます。ご期待とご支援をよろしくお願い致します。

ホテルオークラ東京での「マッケンジー・ソープ作品展」を今年も「愛をはこぶ人キャンペーン」主催で開催いたします。キャッチフレーズは、「感じてください、あたたかさを。言葉がなく

ても、きっと伝わる」です。会期は2007年11月16日(金)～27日(火)で、時間は11:00～20:00(最終日は18:00終了)です。会場はホテルオークラ東京の別館ロビーです。今回の作品展ではディスレクシアをメインにLDに関する啓発コーナーを充実させます。それは愛をはこぶ人キャンペーンの願いだからです。出来るだけたくさんの人に正確な知識を持っていただくことにより、辛い思いをしておられるたくさんの人たちが、自分が持っている素晴らしい力に気が付く「きっかけ」つ

くりになればと願っております。友人知人のたくさんの皆様にご紹介下さい。

9月18日には「キャンペーン暑気払い」と銘打ち、実行委員長の上野先生や実行委員の皆様、いつもキャンペーンを応援していただいている仲間たちが集まりました。今秋から来年に向けてのキャンペーンの新企画を話し合いました。今後のキャンペーンの新しい展開にどうぞご期待下さい。
<http://www.aiwohakobu.jp>
e-mail:mail@aiwohakobu.jp
(文責 藪 巧一)



上野実行委員長を囲んで

Report from the EDGE - 第15号 -

2007年10月25日発行

発行者 NPO法人EDGE

発行責任者 藤堂栄子 東京都港区浜松町1-20-2 村瀬ビル3F

Tel.03-6240-0670・0672 Fax.03-6240-0671

編集 NPO法人EDGE事務局 柴田章弘

印刷 株式会社 信英堂

<http://www.npo-edge.jp>

http://blog.livedoor.jp/npo_egde/

email:info@npo-edge.jp